

学校評価報告書

学校名	松伏町立松伏第二中学校
実施日	令和5年1月10日

- ・「学校自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、4～1(平均点)を記入してください。
 ・「学校自己評価についての評価の説明及び改善策等」の欄には、その評価に至った理由及び学校自己評価の結果を学校がどのように受け止めているか等を記入してください。

NO	評価項目	学校自己評価	学校自己評価についての評価の説明及び改善策等	学校関係者評価委員評価	学校関係者評価委員会の意見等
1	学校は、特色ある学校づくりに取り組んでいる。	3.5	校長は、年度当初から職員会議等で特色ある学校づくりを目指す経営ビジョンを明確に示し、リーダーシップを発揮して取り組んでいる。今年度は、不登校対策やICT活用などを研究課題にも末、それぞれは成果が出ていると考える。また、行事も積極的に工夫して行っている。このような姿勢が、学校の活気に繋がり、部活動の県大会出場多数等にも出ている思う。しかし、その反面、スクラップが課題となっている。	3.3	・校長先生の学校づくりのビジョンを明確に感じる。 ・コロナ禍でも修学旅行の実施、体育祭、しらさぎ祭など、多くの生徒が楽しく充実感を得ている。 ・校長先生自ら面接練習を行うなど、リーダーシップを発揮されている。
2	学校は、積極的に生徒指導に取り組んでいる。	3.5	生徒指導主任を中心に、家庭や地域、関係機関と連携を図りながら積極的に生徒指導に取り組んでいる。校内では生徒指導委員会を中心に組織として取り組むことができている。生徒のよさやとりえを生かし、前面に出したり、掲示物等で称えたりすることで、積極的な生徒指導を推進している。今年度は更にタブレット端末を活用した授業、集会、発表の場を多くつくることができ、活躍の場を増やせた。今後は、人間関係を築くことが困難な生徒たちのためにも、ソーシャルスキルトレーニングなどを計画的に行う必要がある。	3.0	・すぐに対応してくれる先生方が多いと聞いて安心している。 ・丁寧に家庭との関係を取ろうとしている。 ・校則のうち、特に髪型には生徒と共に協議を深め、生徒指導に生かしてもらいたい。
3	学校は学校教育目標の実現に取り組んでいる。	3.6	教務部で定期的に確認し、適正に授業確保を行っている。教科等の指導の重点は、今年度は特に評価について、教員で学びながら実現に向けて進めることができた。また、ICT活用が大きく進んだり、様々な掲示物、発表の機会を多く設けたりしたことで、「認めあう」機運が高まっている。しかし、定期テストから成績処理等の業務により、時数確保が難しい時があったため、確認と配慮が必要である。	3.3	・メール配信・学校だより等の活用で保護者への学校教育目標の周知が進んだ。 ・感染防止対策を講じながらも、指導方法を工夫して教育活動を進めている。 ・タブレット端末をよく使用して、授業を行えている。
4	学校は、学力向上に取り組んでいる。	3.3	ベース学習において、基礎基本の定着を図る等、単元では確保できない分を担い行えた。しかし、その質については計画的に見直しが必要である。今年度はタブレット端末を使い、スマイルドリルを試行したため、特に基礎的な力をつける一助となった。しかし、日々の慌ただしい日常の中で、より個に応じた授業時間や体制を確保することには課題がある。人員確保や計画的な共通部活動停止期間を設定するなど、工夫を図りたい。	3.5	・二中の地域の特徴等を踏まえ、点数を上げることに終始せず、学ぶ意義や自身のよさを育むことに力を注いでいきたい。 ・教員の数が増えなければ変わらない。先生の業務が多くなり、学力はいつも課題とされている。 ・相談室や家庭からのタブレット端末を使用した授業参加は素晴らしい。

NO	評価項目	学校自己評価	学校自己評価についての評価の説明及び改善策等	学校関係者評価委員評価	学校関係者評価委員会の意見等
5	学校は豊かな心を育む授業に取り組んでいる。	3.3	昨年度までの、「考え、議論する道徳の授業」について研修が生かされ、学年職員がローテーションで授業を担当するなど、全職員で取り組み授業体系も構築された。また、昨年度より各行事を充実したものとしたこと、多くの場面で生徒同士が互いを認めあえる豊かな心を育む教育活動が進んだ。生徒のアンケート結果でも、思いやりについての項目において、高評価を得ている。今後は、その質も引き続き向上させる。	3.0	・相談室登校の生徒も多く、そこでも多くの先生方が関わってくれていることから、豊かな心を育てている。 ・多くの行事をつぶさずに行っていることも、その機会となっている。
6	学校は、「規律ある態度」の育成に取り組んでいる。	3.4	生徒の指導には模範となる教員の挨拶の姿が重要である。その点、本校教員は積極的に、生徒や来客に挨拶ができています。しかし、生徒には更なる改善の必要性を感じている。言葉遣いについては、一部の教職員間に課題がある。若い教員が増えていくため、指導を引き続き行いたい。規律ある態度については、今年度も熱心に取り組んでいる。今後もアンテナを高くしていく。	3.5	・教職員、生徒ともに学校に行くと挨拶を元気にしていただける。 ・言葉遣いも丁寧であると感じる。一部、教員の中で時に配慮が足りない指導があると聞いている。改善してほしい。 ・生徒が大変落ち着いていて指導の成果である。
7	学校は、児童生徒一人一人を大切にしている。	3.7	学校教育目標「認めあう」を強く意識し、多様な生徒の悩みや相談に真摯に応えようとしている。例えば相談室の拡充や、タブレット端末を使ったオンライン授業や面談である。他にも、ケース会議を昨年度より開催し、個に応じた課題について、関係機関の協力を得ながら包括的に対応してきた。更に、教育相談委員会では、SSW・SCも出席し、個に応じた対応を行った。また、無記名による生活アンケートを行い、教育相談をセットにして行い、多様な方法で生徒のSOSを受け止	3.5	・相談室を拡充し、より生徒の悩みに寄り添っている。 ・不登校の生徒のため、入りやすい相談室を増設して対応している。 ・教員数が少ないため、先生方の負担は大きい。二中の先生方は良くしてくださっています。
8	学校は、「健康・体力」の目標達成に取り組んでいる。	3.5	本校全体の課題は、持久力と柔軟性である。毎回の体育の授業で5分間走や柔軟体操を継続して行うことで取組の成果がでてきている。持久走では生徒の感想を見ると、充実感を感じている記述が多く見られた。このことから昨年度の指導の工夫・改善の成果を感じている。また、体育祭や運動部活動でも熱心に取り組む姿が見られている。これらの前向きな機運を、本校教員で共有することはもちろんのこと、家庭・地域にも発信し、理解と協力を得ることが必要である。	2.5	・今年度は通常に近い体育を進めてくださっているが、十分な運動量かが分かりかねる。 ・学校の課題などをまた、明確にして共有してもらいたい。
9	学校は、学ぶ環境づくりに取り組んでいる。	3.1	生徒は自分の役割を果たし、清掃に丁寧に取り組んでいるが、教員としては、より質の向上を図りたいとの考えている。また、今年度はトイレの落書きが複数回あったことから、生徒のSOSと捉えて受け止めると共に、環境づくりを生徒にも浸透させたい。他にも、相談室での個別ブースにより、生徒に応じた環境作りが進んだ。それ以外の教室等を活用し、自習スペースなどを確保したい。生徒の正しい言葉遣いについては、まずは教員が常に意識をして率先垂範して生徒をより良い方向に導き、指導を進めていく必要がある。	3.0	・校内が丁寧に清掃され、きれいです。 ・授業や廊下での言葉遣いを聞いていても、やさしいと思います。

NO	評価項目	学校自己評価	学校自己評価についての評価の説明及び改善策等	学校関係者評価委員評価	学校関係者評価委員会の意見等
10	学校は安心・安全な教育環境づくりに努めている。	3.5	毎月の安全点検だけでなく、普段の生活の中で、施設の瑕疵が発見され次第、事務主事を中心に速やかに修繕を行っている。また、掲示物に使用する画鋏から、安全なワッポンを導入し、改善が進んでいる。避難訓練は定期的実施しているが、当然のことながら、教員間の連携や誘導體制、不審者対策について、今後もより工夫を図り、組織的に対応していく。	3.0	・定期的な訓練はされていると思いますが、有事はいつくるかわからないので、重ねてお願いします。
11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	3.5	学校便りを作成し、自治会回覧や地域数ヶ所の掲示も依頼し、情報発信を行っている。また、メール配信回数を増やし、必要な情報を迅速に家庭に伝えてきた。更に、宿泊行事ではブログを活用し、生徒の活動の様子を発信。しらさぎ祭では、コロナ対策のため、人数制限をしたことから、保護者へオンライン配信を行った。他にも、部活動の大会等をオンライン配信し、制限下でのニーズに対応した。これらの取組について、保護者からも好評をいただいた。今後は、日常生活の様子をより発信し、HPの更新回数を増やしたい。	3.5	・ホームページの更新情報をさらに向上してほしい。 ・学校便りを読むと、生徒の活躍が多くあります。
12	学校は、家庭・地域社会と連携協力し、問題解決に取り組んでいる。	3.4	前述したように、生徒指導及び教育相談上の課題について、昨年度より、多くの関係機関と連携し、解決を図ることができた。今年度は、生徒だけでなく、それを支える家庭への助けを進めるために、関係機関と家庭を繋いで進めることができた事案を多くある。また、生活習慣の改善となる、虫歯治療については保健便りを用いて機会をとらえて啓発した。しかし、コロナ禍及び働き方改革推進により、縮小したものもあるため、今後は保護者・地域の理解を得ながら進める必要がある。	2.5	・不登校の生徒の解消に向けて、さらなる方策を検討願いたい。 ・防犯パトロール・通学路点検など担い手不足があるが、先生方に負わせることはできない。 ・コロナもあり、連携できる場面はなかなか作れないと思うので、今後検討いただきたい。